



地域の暮らしを支える
みんなの医師会病院

医師募集概要

Recruitinformationfordoctors



公益社団法人 益田市医師会立
益田地域医療センター
医師会病院

安心して暮らせる地域づくりを目的とし、益田地域のニーズにあった 保健・医療・福祉の提供を行います

基本方針

- 1.公正で安全な医療を提供し人材育成と研修の場を提供します。
- 2.患者さま・ご家族さまの人権と意志を尊重した、納得と同意に基づいた医療を提供します。
- 3.かかりつけ医の支援病院としてきめ細かな病診連携を行います。
- 4.在宅を目指した保健予防・リハビリテーション・緩和ケアの充実を図ります。
- 5.公益社団法人として益田地域全体にわたる保健・医療・福祉のセーフティネットを構築し、公益の増進に寄与します。

医師会員の先生(かかりつけ医)と連携が取れた医療提供

益田地域医療センター医師会病院は、益田市医師会の会員が設立した病院です。入院患者の大半が医師会員の紹介であり、地域完結型の病院運営を行っています。

益田地域医療センター医師会病院の設立構想

- ① 「新たな時代に対応した益田地域独自の医療サービス体制を創造したい」
⇒保健予防、診療、リハビリテーションの三位一体の一貫した医療機関の実現
- ② 「家庭医、地域の医療提供者としての環境を改善したい」
⇒高度な医療設備・医療機器および専門医を配置した施設を共同で建設し、共同で利用することによって、最新の医療技術・医療ニーズに対応する

特長

●開放型病院・共同利用施設

(医師会員との密な連携、医療資源の有効活用)

●地域医療支援病院

(中四国で初承認、紹介率99.6%かかりつけ医推進)

●地域医療拠点病院

(へき地巡回診療無医地区6地区年間計218日)

●保健予防センター

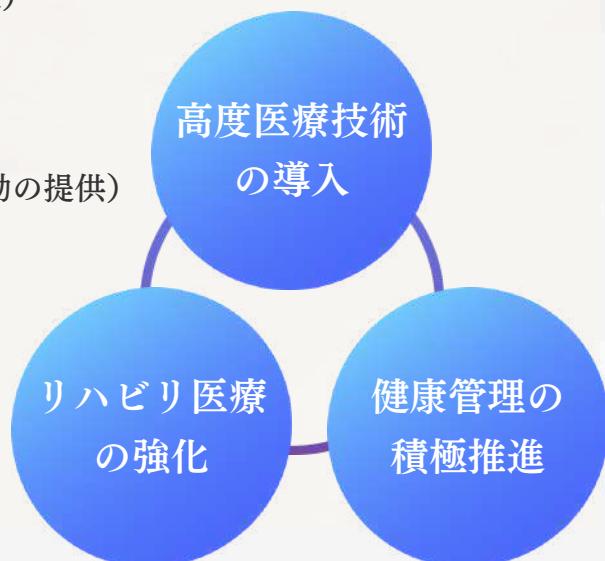
(人間ドック・企業健診など充実した保健予防活動の提供)

●臨床検査センター

(会員医療機関からの検査受託)

●リハビリテーションセンター

(県内屈指のリハビリ施設・人員体制)



地域医療を守るために

1. 病床機能の転換

益田赤十字病院

2015年：新築立替えを契機に急性期機能に特化(病床数284床)

益田医師会病院

2015年：一般病棟1単位(57床)を地域包括ケア病棟に転換

2020年：介護療養病棟（44床）を介護医療院へ転換、病棟再編計画により病床数の適正化(病床数253床)

2. 医療機能連携協定の締結

医師会病院と益田赤十字病院の相互に有する機能を活用し、連携して適切な地域医療を提供することを目的とした協定を締結（2016年）

3. 在宅療養後方支援病院

在宅医療を提供している医療機関（医師会員）と連携し、あらかじめ緊急時の入院先とする希望を届け出していた患者さんの急変時などに24時間体制で対応し、必要に応じて入院を受け入れる（2020年）

益田医師会 病院

- 急性期医療
(軽度な患者対応)
(開業医の後方支援)
- 回復期医療
 - ・回復期リハ病棟
 - ・地域包括ケア病棟
- 慢性期医療
- 在宅療養後方支援病院

益田 赤十字病院

- 急性期医療
(主たる急性期病院)

かかりつけ医



『病院完結型』から『地域完結型』へ
地域で支える『在宅医療』

診療案内

当院は、地域の皆さんに信頼される医療を提供することを目指し専門的な診療と温かいケアを大切にしています。

各診療科の連携を強化し、患者さま一人ひとりに最適な治療を行えるよう努めています。



一般内科



循環器内科



腎臓内科



呼吸器内科



外科



形成外科



整形外科



脳神経外科



麻酔科



リハビリテーション科



リウマチ科



循環器外科



呼吸器外科



婦人科



放射線科

へき地医療を確保する“へき地巡回診療”的実施

医師会病院では昭和60年、当時の厚生省よりへき地中核病院（現在は地域医療拠点病院）の指定を受け、以来、圏域内の無医地区への巡回診療を実施してきました。

巡回診療は、医師・看護師・事務兼運転手の3名でチームを編成し、医薬品と簡単な検査機器を搭載して診療に行きます。

診療内容に限界があるため、出張診療所で手におえない患者さんは、医師会病院でフォローします。

診療は巡回診療用の専用施設が整備されている地区もあれば、公民館で診療している地区もあります。地域住民からは「なくては困る」という声をいただいています。



柏原出張所

健診ツーリズム

益田市ふるさと納税の体験型返礼品として、益田市観光協会との共同企画により健診ツーリズムをリリースしました。

当院での人間ドックに益田での観光・宿泊・食事を盛り込んだプランです。



ヘルシーディナー（一例）

院長インタビュー

「人が集う、人が暮らす」病院へ 医師会病院が目指す、次世代の地域包括ケア

— 新病院への建て替えにあたり、新たに「人が集う、人が暮らす」のコンセプトを掲げられました。

このコンセプトに込められた病院の役割や目指す姿についてお伺いします。

多くの方は、病院を「病気になってから治療する場所」と認識されていると思います。

それに対して、私たちは治療だけでなく、病気の予防から治療後の在宅復帰に向けた支援、さらには退院後のフォローアップまで、患者さんを継続的に支える医療を担う病院を目指します。

病気を治すだけでなく、地域で安心して暮らし続けられるよう寄り添う、そんな存在でありたいと考えています。

具体的には、健診や日々の健康管理を通じて「病気を未然に防ぐ」ことに注力します。治療が必要ない段階でも、健診データに問題があれば栄養指導やリハビリなどにより、病気の前段階からサポートを行うのです。積極的な予防医療は患者さんやご家族の負担を軽減し、結果として医療費の削減にもつながります。

さらに、「退院後の暮らしを守る」のも大切なことです。入院される患者さんは、早く自宅に戻って自分らしい生活を送りたいと望んでいます。しかし、生活習慣病はもちろん、がんや心不全などの病気であっても、多くの場合は完治して退院するのではなく、急性期後も長く付き合いながら生活をしていくことになります。だからこそ、入院期間をできるだけ短縮し、ご自宅での生活を支えるケアが極めて重要です。私たちはこうした前後のプロセスに一貫して携わることで、地域の人たちの「暮らしのもの」を切れ目なく支えたいと考えています。

この役割を果たすためには、病院が皆さんにとって身近な場所である必要があります。病院を街と一体化させ、ショッピングセンターや公園のように誰もが気軽に集えるコミュニティーの場、地域の中心地にしたい。そんな思いから、「人が集う、人が暮らす」をコンセプトに掲げました。

— 開設から約40年を経て、このタイミングで建て替えを決断された理由は何でしょうか

建物の物理的な寿命に加え、この先の40年、50年を見据えた長期構想のタイミングが重なったという背景があります。

今後、直面する2040年問題では社会保障制度の持続性が大きな懸念となっており、国は共助を基盤とした地域包括ケアシステムを推進しています。こうした方向性の中で、病院の機能を最適化し、地域包括ケアシステムの要としての役割を果たすには、建物の構造 자체を見直す必要があると判断しました。



また、新病院ではデジタルトランスフォーメーション（DX）の積極的な導入も検討しています。

40年前には想像もできなかったITやAIの技術を、人手不足が深刻化する時代において活用しないわけにはいきません。このDXは病院内にとどまらず、地域全体に展開します。医師会立の病院として、地域のかかりつけ医との連携強化は重要なテーマです。

ICTによって医療情報の共有を推進し、かかりつけ医が持つ患者の身近な情報と、当院での入院や検査情報を連携させることで、より質の高い医療を実現していきます。医療提供が難しいへき地や遠方地域に対しても、医療MaaSなどによって医療資源を効率的に活用しながら、地域全体を支えることが可能になります。建物の老朽化もありますが、このテクノロジーとネットワークの強化が、建て替えを決断した大きな理由です。新しい時代に則した病院機能や役割を追求してまいります。

— 貴院ではどのような医療が求められていますか

高齢化が急速に進む中で、私たちは「地域の人々の暮らしを支える」という使命を担っています。そのため、一つの専門性に特化するのではなく、患者さん全体を診る総合診療的な視点が大切です。ジェネラリストによる診療を基盤とした上で、これまで培って来られた専門性を発揮していただくことが求められています。

当院では、職種横断的なキャリア支援を行う「キャリア支援センター」を院長直下に独立して設置しています。これにより、職種を越えた横断的な学びの機会を提供し、ジェネラルなスキルと専門性の双方を研鑽できる制度や活躍の場を支援しています。医師に限らず看護師やリハビリスタッフなどが、地域医療のフィールドで、総合力と専門性を両輪で磨けることは職員のやりがいにつながっています。

— どんな先生にお越しいただきたいですか

私たちが最も重視するのは、地域医療に対する熱意とコミュニケーション力です。

この医療圏は、日本の2040年を先駆けて迎えているような高齢社会の最前線です。

いずれ、どんな都会も迎えることになるこの状況に対し、「自分が今後の地域医療を支える」という強い熱意を持って、真摯に取り組める先生にお越しいただきたいと考えています。

そして、今やチーム医療が基本でありますし、高齢者が多い地域ですから、患者さんやご家族との良好なコミュニケーションが良い治療やケアに直結します。

このため、コミュニケーション力も同様に重視しています。



院長インタビュー 2

— 貴院のチーム医療体制について教えてください

多職種が円滑に連携するための仕組みを整備し、風通しの良い環境を整えていますが、さらにプラスアップしていきたいと考えています。当院では、個人の成長だけでなく、チームの成長、すなわち多職種のビルドアップもキャリア支援だと捉えていますので、先ほど申し上げた「キャリア支援センター」では、連携の質を高めるためのサポートも行っています。

また、当院のチーム医療は病院の外にも広がっています。小さな市の医師会立病院という特性を活かし、開業医や行政との連携が極めて密接です。市全域を視野に入れたチーム活動ができるることは当院ならではの魅力であり、地域包括ケアシステムの本質的な実践に取り組めることは、地域医療への貢献を志す先生にとってこれ以上ないモチベーションにつながるはずです。将来、開業やへき地・離島での医療を目指す方にとっても、地域との信頼関係を構築し、総合的な診療スキルを身につけるための最高の研鑽の場となっています。実際に、当院での勤務を経て開業される先生も少なくありません。

— 先生方へのメッセージをお願いします

先生方には、私たちが目指す新しい病院像と役割に共感していただきたいと願っています。当院の構想の中で「自分のこんな力が発揮できる」という気持ちを持って、新しい時代を担う病院の機能を共に創り上げていく姿勢を期待しています。

当院は今、未来を見据えた変革のフェーズにあります。先生方の参画が、当院の大きな力となり、地域医療の未来を形作る核になってくれると信じています。



益田地域医療センター医師会病院
院長 齊藤 洋司

募集要項

益田地域医療センター医師会病院は、
「地域完結型」医療を推進する地域の中核病院です。
患者様一人ひとりに寄り添い、地域に根ざした医療で
安心と信頼をお届けします。

おすすめポイント

・高水準の給与と充実した福利厚生

経験に応じた高水準の給与（1,200万～1,800万円）に加え、赴任・住宅手当、学会費用負担など、先生の生活とキャリアを強力にサポートします。

・充実したワークライフバランス

土日祝が休日であるためプライベートの時間も確保しやすく、ワークライフバランスを重視したい医師にとって魅力的な環境です。

・幅広い医療経験が積めるケアミックス型病院

多様な病床種別を持つケアミックス型病院ですので、急性期から慢性期・リハビリテーションまで、幅広い症例に対応、ジェネラリストとして総合的なスキルアップを目指せます。

※一次救急程度ですので、ハードな環境ではなく比較的ゆったりとご勤務いただけます。

求人条件(全科共通)

就業場所 : 益田地域医療センター医師会病院

募集科目 : 一般内科（消化器内科・神経内科・循環器内科・呼吸器内科など）
専門の知識を活かしながら一般的な内科診療を担当、総合診療科
外科、リハビリテーション科、精神科
※内科系医師・総合診療医が優先

勤務日数 : 週5日

勤務時間 : 月～金 8:20～17:15

休憩時間 : 60分（概ね12時～13時）

当直回数 : 月3～4回（診療科によって免除可能な場合あり）※精神科は当直なし

当直体制 : 一人当直（救急、病棟管理）全科当直

基本給与 : 1,200万円～1,800万円

想定年収（当直手当@40,000 月3回分込）

10年目医師：1500万円～

15年目医師：1700万円～

20年目医師：1800万円

当直手当 : 年収に含む

オンコール : 各科あり（待機当番制）※精神科はなし

業務内容 : 外来担当2コマ程度、受診者数10名/日 程度

入院受け持ち数15名程度（一般病棟・地ケア病棟）

募集要項

内科全般

- 募集科目：消化器内科・神経内科・循環器内科・呼吸器内科など
※モデル：30～50代
各種専門医あり・当直対応可能な医師・プライマリな診療が出来る
- 勤務開始：随時
- 募集背景：体制強化により募集
- 募集科目：一般内科（専門科目は応相談）
- 応募条件：急性期、慢性期など幅広く対応可能な医師
- 医師体制：常勤3名、非常勤0名
- 勤務時間：月～金 08:20～17:15
- 勤務日数：5日
- 当直：月1～4回
- 休憩時間：60分（12:30～13:30）
- 休日：土曜日、日曜日、祝日
- オンコール：待機当番あり
- 勤務内容：外来診療（内科外来）
担当コマ数：2～3コマ／週
外来患者数：10名程／コマ
診療体制：内科一人体制
主な疾患：一般内科及びその他循環器、神経系など専門診療あり
※該当医師の専門性により別途外来日を設定
- 病棟管理
担当病棟：一般病床
担当患者数：15～20名程
担当制：主治医制
- 当直時対応：当直時業務内容
病棟管理（急変時対応）
救急対応（救急車0～2台）
夜間外来（1～2人）

外科、リハビリテーション科

勤務開始：随時

募集背景：体制強化により募集

募集科目：外科、リハビリテーション科

応募条件：専門医保有者歓迎

医師体制：リハ病棟専従1名 兼務1名

　　外科は常勤1名

勤務時間：月～金 08:20～17:15

勤務日数：5日

当直：月3～4回

休憩時間：60分（12:30～13:30）

休日：土曜日、日曜日、祝日

オンコール：待機当番

勤務内容：外来診療（外科リハビリテーション科）

　　担当コマ数：2コマ／週

　　外来患者数：10～15名程／コマ

　　診療体制：リハ外科一人ずつ

病棟管理

　　担当病棟：外科一般病床 リハ病床

　　担当患者数：外科15～20名程 リハ30名程度

　　担当制：主治医制

当直時対応：当直時業務内容

　　病棟管理（急変時対応）

　　救急対応（救急車0～2台）

　　夜間外来（1～2人）



募集要項・福利厚生

精神科

- 勤務開始：随時
応募条件：認知症診療が可能な方。精神保健指定医の資格の有無は不問だが、あれば尚良し
医師体制：常勤0名、非常勤0名
勤務時間：月～金 08:20～17:15
勤務日数：週5日
当直：なし
オンコール：なし
休憩時間：60分（12:30～13:30）
休日：土曜日、日曜日、祝日
勤務内容：**外来診療（精神科外来）**
　· 担当コマ数：応相談
その他
　· 他科入院患者様の中で認知症を罹患されている方の診療
　· 緩和ケアチーム等、精神科医師が必要なチームへの参加
　· 職員のヘルスケア対応

福利厚生

- 休暇：夏季休暇、年末年始休暇、慶弔休暇、その他休暇
退職金：あり ※ただし、嘱託契約の場合は退職金なし（年収に上乗せ）
各種保険：健康保険 厚生年金 雇用保険 労災保険 医師賠償責任保険（負担なし）
住宅手当：規定により支給 職員宿舎（寮）あり
赴任手当：実費支給
通勤手当：上限17,000円/月
時間外手当：あり
学会参加：可（出張扱い、費用は年間規定額まで病院負担）
昇給：あり（年1回）
契約期間の定め：期間の定めなし
試用期間の定め：あり（6ヶ月）
定年制：65歳（再雇用70歳まで）
時間外勤務：あり
固定残業代：あり（役職別に設定）
給与〆支払日：当月末締め、当月25日払い
受動喫煙対策：敷地内禁煙／喫煙室の設置：無
自己都合退職：3か月前までに申し出ること
その他福利厚生：規定により子育て支援手当支給
　研修手当：学会参加費用として年間規定額まで支給
　賞与あり（年2回）
育児休業・産前産後休業制度あり 駐車場あり 職員保育所あり

益田市について

島根県益田市は、島根県の西部にあり、山口県や広島県と隣接しています。日本海と中国山地に囲まれた自然豊かな地域です。山陰地方の中でも比較的温暖で日照時間が長いエリアです。中世の城下町としての面影が色濃く残り、万葉集の歌人である柿本人麿や、室町時代の画聖・雪舟が晩年を過ごした歴史文化の香り豊かな町でもあります。一方、高齢・過疎化も全国平均よりも早いスピードで深刻な課題を抱えています。

高齢化社会の問題

國勢調查人口

(2015年) 47,718人

(2020年) 45,003人

※1985年 60,080人

人口増減率 (2015~2020年)

全国平均 -0.75%

益田市 -5.69%

高齢化率（65歳以上：2020年）

全国平均 28.00%

益田市 37.80%



法人概要

施設概要

名 称：益田地域医療センター医師会病院
住 所：〒699-3676 島根県益田市遠田町1917-2
開 設：昭和61(1986)年5月1日
開 設 者：公益社団法人益田市医師会会長大畠力
院 長：齊藤洋司
診 療 科 目：内科、外科、整形外科、循環器内科、循環器外科、麻酔科、放射線科、
肛門外科、呼吸器内科、呼吸器外科、腎臓内科、リウマチ科、
リハビリテーション科、婦人科、病理診断科、形成外科、脳神経外科
救 急 指 定：2次救急指定
病 床 種 別：253床
(一般病床60床・地域包括ケア60床・回復期リハ44床・医療療養44床)
ア ク セ ス：JR山陰本線「益田駅」からタクシーで10分
萩石見空港からタクシーで約20分
益田駅前から石見交通バスで約20分
施 設 H P：www.masuda-med.or.jp/ishikai/
カ ル テ：電子カルテ(メーカー：富士通)
医 療 機 器：透析施設(12床)、地域包括ケア病棟内に緩和ケア病床(5床)、
手術室(3室) 64列以上CT1台、1.5T以上MRI、X線2台、X線TV装置1台、
骨密度測定装置1台、マンモグラフィ装置1台

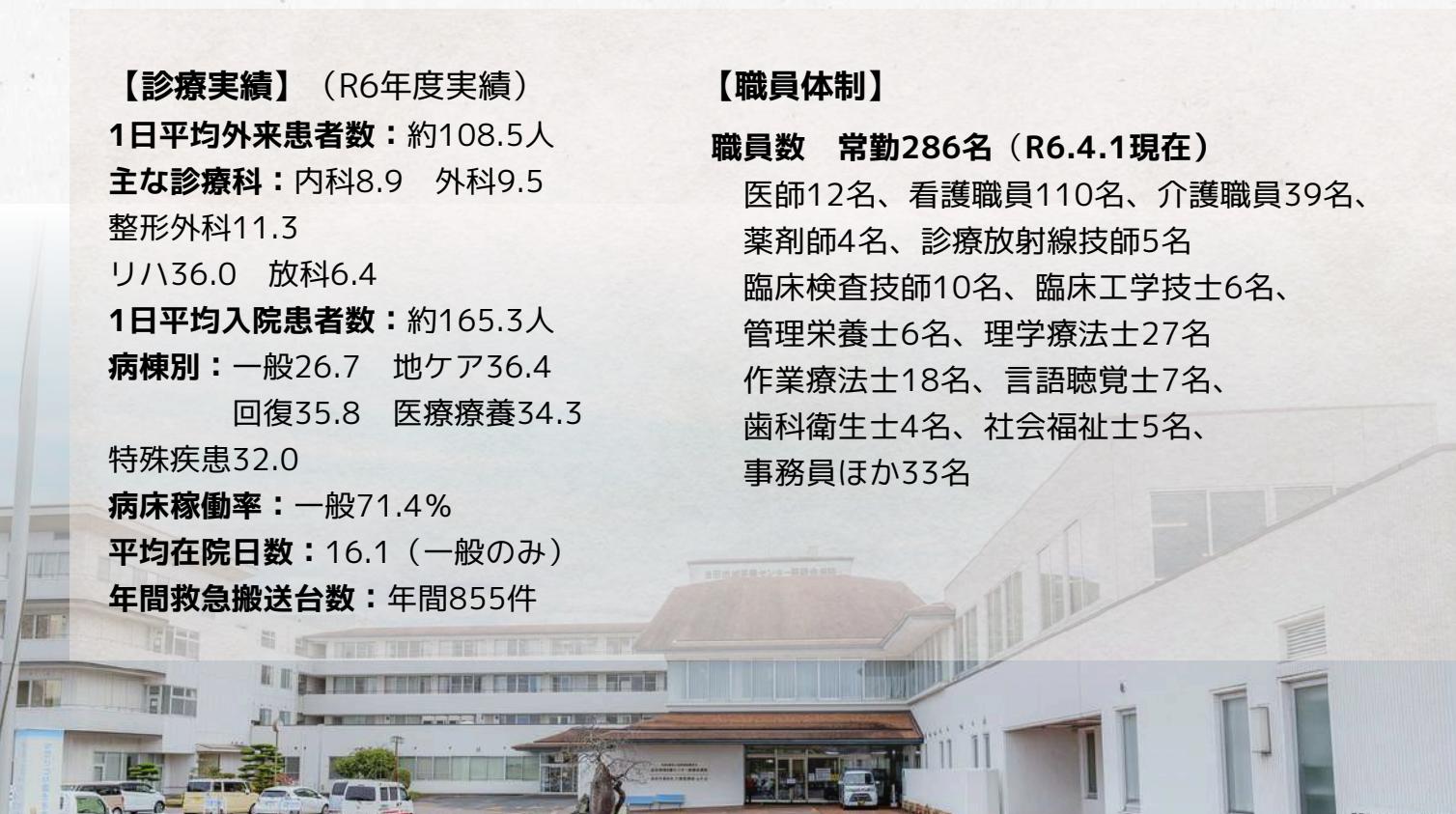
【診療実績】(R6年度実績)

1日平均外来患者数：約108.5人
主な診療科：内科8.9 外科9.5
整形外科11.3
リハ36.0 放科6.4
1日平均入院患者数：約165.3人
病棟別：一般26.7 地ケア36.4
回復35.8 医療療養34.3
特殊疾患32.0
病床稼働率：一般71.4%
平均在院日数：16.1 (一般のみ)
年間救急搬送台数：年間855件

【職員体制】

職員数 常勤286名 (R6.4.1現在)

医師12名、看護職員110名、介護職員39名、
薬剤師4名、診療放射線技師5名
臨床検査技師10名、臨床工学技士6名、
管理栄養士6名、理学療法士27名
作業療法士18名、言語聴覚士7名、
歯科衛生士4名、社会福祉士5名、
事務員ほか33名



付属施設

益田市医師会
介護医療院 ふたば



益田市立介護老人保健施設
くにさき苑



病床数 : 44床

施設の特徴 : 長期的に医療と介護が必要な高齢者に対する介護保険施設。

«医療機能»«介護機能»«生活機能»
«リハビリ機能»の4つを兼ね備える

対象者 : ●医療的管理の下で長期にわたり療養が必要な方で、療養上の管理、看護、介護、リハビリテーション等の必要な要介護（要介護1～5）の高齢者
●他の介護保険施設に比べ、医療必要度、介護必要度の高い方が対象となる

対象年齢 : 要介護度1以上の方 原則65歳以上の方
特定疾病に認定された40歳以上65歳未満の方

入所可能期間 : 病状によっては介護施設の申込をお願いしている

退院先 : 制限無し

病床数 : 2単位・計99床

施設の特徴 : 高齢者の自立を支援し、在宅への復帰を目的とした中間施設 在宅復帰支援機能超強化型の条件

①在宅復帰率
②ベッド回転率

③要介護4または5の割合 等10項目

対象者 : ●病状が安定期にあり、入院治療が必要でない要介護者
●在宅に戻って生活するために必要なリハビリや医療、日常生活 上のお世話を必要とする方
●常時介護が必要な方、自宅での生活が難しい

対象年齢 : 要介護度1以上の方
原則65歳以上の方
特定疾病に認定された40歳以上65歳未満の方

入所可能期間 : 一生涯に渡って入所して生活するところではない（要支援1・2の方は短期入所のみ）

退院先 : 制限無し 在宅復帰率～50%以上





公益社団法人 益田市医師会立
益田地域医療センター
医師会病院

田中 裕子

MOBILE : 070-5550-8996

E-mail : rpo@mstage-corp.jp